

「第20回臨床消化器病研究会」開催のお知らせ
消化管の部 主題4 症例募集のお知らせ

消化管の部

[4セッション]

■ 8:50～10:40

主題1 「消化管癌(形態学):下部消化管」 指定演題

テーマ:大腸鋸歯状病変の内視鏡診断

司会:山野 泰穂 先生(札幌医科大学医学部 消化器内科学講座)
河野 弘志 先生(聖マリア病院 消化器内科)

■ 10:30～12:00

主題2 「炎症性腸疾患(IBD)」 指定演題

テーマ:症例から学ぶ腸の炎症性疾患(Season3)
～免疫チェックポイント阻害薬関連腸炎～

司会:穂苅 量太 先生(防衛医科大学 消化器内科)
渡辺 憲治 先生(兵庫医科大学 腸管病態解析学)

■ 12:10～13:00

主題3 「機能」 指定演題

テーマ:内視鏡医が知っておきたい下痢・便秘

司会:中島 淳 先生(横浜市立大学 肝胆膵消化器病学)

■ 14:15～15:45

主題4 「消化管癌(形態学):上部消化管」

テーマ:H. pylori未感染胃底腺粘膜の病変

司会:上堂 文也 先生(大阪国際がんセンター 消化管内科)
八尾 建史 先生(福岡大学筑紫病院 内視鏡診療部)

予定演題:公募して決定する

※症例検討3症例を予定しております。

肝胆膵の部

[3セッション]

■ 8:50～10:40

主題1 肝:「肝嚢胞性病変の鑑別」

司会:吉満 研吾 先生(福岡大学医学部 放射線医学教室)
植木 敏晴 先生(福岡大学筑紫病院 消化器内科)
病理コメントーター:中島 収 先生(久留米大学病院 臨床検査部)
基調講演:小坂 一斗 先生(金沢大学附属病院 放射線科)

■ 10:50～12:40

主題2 胆:「IgG4関連硬化性胆管炎と癌の鑑別に難渋した胆管病変」

司会:菅野 敦 先生(自治医科大学 消化器内科)
海野 倫明 先生(東北大学大学院 消化器外科学)
病理コメントーター:能登原 憲司 先生(倉敷中央病院 病理診断科)
画像コメントーター:蒲田 敏文 先生(金沢大学附属病院 放射線科)
基調講演:糸井 隆夫 先生(東京医科大学 消化器内科学分野)

■ 13:55～15:45

主題3 膵:「膵腫瘍に対するEUS-FNAを再考する」

司会:瀧沼 朗生 先生(手稲溪仁会病院 消化器病センター)
清水 泰博 先生(愛知県がんセンター中央病院 消化器外科)
病理コメントーター:福嶋 敬宜 先生(自治医科大学附属病院 病理診断科)
基調講演:入澤 篤志 先生(獨協医科大学医学部 内科(消化器))

2020年11月21日(土) 8:45～16:00(予定)

ベルサール汐留 B1Fホール、2Fホール
B1Fホール「消化管の部」、2Fホール「肝胆膵の部」

〒104-0061 東京都中央区銀座8-21-1 住友不動産汐留浜離宮ビルB1・1F・2F ベルサール汐留

参加資格 オープン 会場費 3,000円

共催:臨床消化器病研究会 〈事務局〉「消化管の部」岩手医科大学医学部 消化器内科消化管分野
「肝胆膵の部」手稲溪仁会病院 消化器病センター

EAファーマ株式会社 担当:芦田 大輔/古屋 浩

臨床消化器病研究会HP <http://netconf.eisai.co.jp/rinsho-shokaki/>



第20回臨床消化器病研究会 「消化管の部・演題募集」について

消化管の部では、主題4で検討する症例を公募いたします。

消化管の部 主題4 症例募集

「主題4」に即した症例があれば、「症例申込表」・「画像・病理データ」をCDに保存の上、事務局宛にお送りください。

※「症例申込表」は、臨床消化器病研究会ホームページ(<http://netconf.eisai.co.jp/rinsho-shokaki/>)より入手できます。

締め切り: 2020年7月10日(金) “消印有効”

送付先: 臨床消化器病研究会(消化管)事務局
岩手医科大学医学部 消化器内科消化管分野 医局宛
〒028-3695 岩手県紫波郡矢巾町医大通2-1-1
TEL: 019-611-8007(ダイヤルイン6222) FAX: 019-907-7166
e-mail: imgast@iwate-med.ac.jp

※本研究会では、各セッションの様様をDVDに収録し、研究会終了後に希望者に貸出します。応募にあたっては、予めご承知おきください。

注意事項

1)「抄録」

※「臨床消化器病研究会 症例申込表」を使用し、以下の項目を必ずご記入願います。

- 演題名、所属、氏名
- 症例の要旨(400文字以内)
- 症例申込表とともに送りいただく資料の種類、枚数(資料別)

2)「画像・病理データ」

※パワーポイントで作成し、以下の画像・病理データをご提出願います。

- 画像所見(X線所見、内視鏡所見など)
- 切除標本所見(マクロ)
- 病理組織所見(ミクロ)
- その他、症例検討に必要な資料

※病理標本現物(プレパラート)は、送付しないでください。

3)「症例申込表」、「画像・病理データ」は、CDに保存の上、ご提出願います。

※今回、演題募集は主題4のみとなります。

主題 1

「消化管癌(形態学):下部消化管」 指定演題

テーマ:大腸鋸歯状病変の内視鏡診断

司会:山野 泰穂 先生(札幌医科大学医学部 消化器内科学講座)

河野 弘志 先生(聖マリア病院 消化器内科)

従来、過形成ポリープ(Hyperplastic polyp: HP)は非腫瘍性病変であり、癌化することはないと考えられていた。しかし症例の蓄積や分子病理学の進歩により、これらの一部に異型を伴う病変や癌が併存する病変が報告され、内視鏡的特徴も提示されるようになり、2010年WHO Classification(the 4th edition)にて大腸鋸歯状病変は病理組織学的にHP(microvesicular/goblet cell rich/mucin poor)、Sessile serrated adenoma/polyp(SSA/P)、Traditional serrated adenoma(TSA)、SSA/P with cytological dysplasiaに分類された。更に2019年WHO Classification(5th edition)において用語と組織学的診断基準の変更が行われHP(microvesicular/goblet cell rich)、Sessile serrated lesion、Traditional serrated adenoma、Sessile serrated lesion with dysplasia、unclassified serrated adenomaに新たに分類された。また最近ではsuperficially serrated adenoma(SuSA)という新しい疾患概念が本邦からも報告され、大腸鋸歯状病変はupdateを繰り返している。本セッションでは最新の大腸鋸歯状病変に関する知見をmini lectureと、洗練された内視鏡画像と病理組織学的所見との照らし合わせを行った症例を通じて学習するものである。

主題 2

「炎症性腸疾患(IBD)」 指定演題

テーマ:症例から学ぶ腸の炎症性疾患(Season3)～免疫チェックポイント阻害薬関連腸炎～

司会:穂苅 量太 先生(防衛医科大学 消化器内科)

渡辺 憲治 先生(兵庫医科大学 腸管病態解析学)

免疫チェックポイント阻害薬は、抗PD-1抗体、抗PD-L1抗体、抗CTLA-4抗体が保険承認されており、悪性黒色腫、非小細胞肺癌、腎細胞癌、ホジキンリンパ腫、大腸癌(MSH-High)など様々な悪性腫瘍の治療に用いられている。2014年に抗PD-1抗体が承認されて以降、散発的に報告されていた免疫チェックポイント阻害薬関連腸炎は、近年、消化器医に広く知られるようになった。しかし、一人の医師が経験する自験例や自施設例は多くなく、病態解明、鑑別診断、治療方針、難治例に対する治療など、様々な課題が残されている。

本主題は、今後も増加が見込まれる免疫チェックポイント阻害薬関連腸炎について、消化器内科医と病理医による基調講演、および症例検討により進行していく。免疫チェックポイント阻害薬関連腸炎の診療のキーポイントや課題について、最新の知識を整理し、明日からの臨床や研究に寄与する機会として参りたい。

主題 3

「機能」 指定演題

テーマ:内視鏡医が知っておきたい下痢・便秘

司会:中島 淳 先生(横浜市立大学 肝胆膵消化器病学)

消化器診療では初療で下痢・便秘を主訴にして受診する患者は非常に多い。その場合多くは大腸内視鏡等で器質性病変の診断を行うが、9割以上は内視鏡的に病変を認めない、ないしはPPIによるmicroscopic colitisのように認めにくいことが報告されている。患者はその原因に加え治療も望んでいることから内視鏡で異常を認めない下痢・便秘に対してはその鑑別診断が非常に重要となる。便秘に関しては最近多くの新薬の登場で内視鏡で所見がない場合の鑑別の進め方などの啓もうがかなり進んだと思われる。また下痢に関しても多くの病態異常のメカニズムが明らかにされその鑑別が実臨床では重要になってきた。本セッションではこのような内視鏡陰性の下痢・便秘症の背景と病態また鑑別をどうするか、最後はその治療までのラップアップになるものと期待する。

主題 4

「消化管癌(形態学):上部消化管」

テーマ:H. pylori未感染胃底腺粘膜の病変

司会:上堂 文也 先生(大阪国際がんセンター 消化管内科)

八尾 建史 先生(福岡大学筑紫病院 内視鏡診療部)

予定演題:公募して決定する

※症例検討3症例を予定しております。

我が国のH. pylori感染率は年々低下し続けている。これまでわたしたちは、胃病変をH. pylori胃炎の病態と関連付けて理解・診断してきたが、今後はH. pylori感染に関連しない胃病変の診断学を学ぶ必要がある。胃底腺(体部腺)粘膜は、腺窩上皮、副細胞、壁細胞、主細胞、ECL細胞などの多種類の細胞とその間質からなり、胃に特徴的である。同部に発生する病変は未分化型癌、胃型・腸型の分化型癌、カルチノイド腫瘍、胃底腺ポリープ、過形成性ポリープ、PPI関連胃症(ポリープ)、自己免疫性胃炎、など実に多彩である。これらの病変の正確な診断とその精度向上には、胃底腺粘膜の細胞構成や組織構築の理解を深めることが重要である。本セッションではH. pylori未感染胃底腺粘膜に発生する病変の診断とその根拠についてミニレクチャーと症例検討(各論)を通じて学びたい。

会場のご案内



- 汐留駅 5番出口徒歩4分(大江戸線) 東口徒歩5分(ゆりかもめ)
- 新橋駅 汐留口徒歩7分(JR線) JR新橋駅・汐留方面改札徒歩7分(浅草線)
- 新橋駅 2番出口徒歩7分(銀座線)
- 東銀座駅 6番出口徒歩9分(日比谷線・浅草線)
- 築地市場駅 A2出口徒歩6分(大江戸線)

消化器疾患の患者さまの笑顔。 そんな、いい絵を描きたい。

消化器疾患で苦しむ人たちの
幸せに生きたい。自分らしくありたい。
その思いにしっかり応える私たちでありたい。
EAファーマは、
そんな未来の実現に向けて進んでいきます。



EAファーマは、消化器のスペシャリティ・ファーマです。

EAファーマは、エーザイグループの消化器事業と
味の素グループの消化器事業を統合・設立した製薬会社です。

